

# 一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ  
シリーズ/NO 127号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

## 駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期20年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4000日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は251名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



## ロンドン留学の大学生の送別会を徹夜で

今朝の駅立ちは、午前5時前にせんげん台駅西口に到着して、街宣用具の搬出、設置そして駅前清掃の後、市政レポートの配布を始めた。

開始してすぐの午前5時30分頃5人の若者(男性4人、女性1人)の集団がそれぞれ談笑しながらエスカレーター前でしばらく固まっていた。お酒が入っている様に見えたが、時々近くの居酒屋で飲んでいただけの若者達がこの早朝の時間帯に通り過ぎていくことはあったので、あまり驚きはしなかった。

ただ、その中の何人かは相当泥酔しているようだったので、一人の男性に今日は何かあったんですかと声をかけてみた。

すると、はい、友人がロンドンに留学するので今日はその送別会を開催していました、との

事。夜通し飲んでいたんですね。へーロンドンに、それはすごいと応じた。

すると、こんなに朝早くから、駅で活動しているんですか、と尋ねられたので、そうですよ、もう20年間毎日続けています、と返事。

えー20年も、それって凄いですね、と驚いた表情。

そこで今何歳ですか、と聞いたら18歳ですとの返事だったので、あなたの生まれて来る前から続けているんですよ、と応じた。

自分で言うてみて、そうか彼らがまだこの世に存在する前から駅立ちを続けて来たんだな一との思いに、ただひたすら愚直にやり続けるしかない、自分を鼓舞した。

今朝もチーム白川の会員である吉田理子さんが一緒に参加して頂いており、市政レポートの配布を中断して簡単な打ち合わせをしている間中、(と言っても5分位)75歳位と思われる高齢男性がすぐ傍でこちらを見て立ち尽くしていた。

何か声を掛けてもらいたい様子だったが、突然あの鳥(ムクドリ)は何とかならないのか、と話かけて来られた。あームクドリ対策のためにロータリーの木々を先般切り倒したんですよ、と返事をした。するとそんな事を言ってるんじゃないんだ。俺は先月まで都内に住んでいたんだが、妻と越谷に引っ越してきた。以前の場所に比べて越谷は汚いと声を大きくした。

汚い?(いきなり私が暮らしている町を汚い、と一蹴されるのは流石に気分が悪くなったが)。何が汚いのですか、と尋ねたら鳥が電線に止まっていて糞とか羽が歩道に落ちている、との返事だった。

そうですね市では色々対策をしているのですが、決定打がない状況なんです。追い払うしか方法がなくて、と応じた。そしたら電線に電気を通電すればいいんだ、電気を流せばいいんだ、と強い調子で迫られた。

電気を通す?なんとも非現実な対策をあいさつもなく、いきなり言い立てる。この市民も恐らく相手をしてもらう友人が少なく、孤独なのだろう。少しの時間でも私に言いたい事を言う時間となったならそれはそれで意味はあるが、これからどう生きるのか。

未来に向かおうとしている若者と残りの人生をどうすればいいのか相談さえすることが困難な高齢者が混在しているのが、私たちが暮らしている現実の社会なのだ、と改めて感じた。

(9月28日・木曜日)

## 玉入れで優勝した、市議会チームの快挙

今日は、市民体育祭 2023 ファミリースポーツデーが開催されたので、午前7時30分位に自宅を出発した。会場はしらこぼと運動公園のため、参加者や大会関係者の車で道路が混みあい、駐車場へスペースも少ないのでは、と思い少し早めに出かけた。

ところが、日曜日なので幹線道路はスイスイと通行出来た上、なんと会場付近も同じ状態のため15分位で到着してしまった。

午前8時45分からの開会式に参加してその原因が分かった。コロナ禍の影響で大会が開催出来ず今回は4年ぶりとなっており、そのせいもあって参加者が通年通りに多いと推測していた。しかし現実はその逆で参加者、参加団体とも半減しており、旧来型の競争を主とした運営から家族が楽しめる運営に変化していた。(大会のネーミングもファミリーとなっている)

そのため、様々な参加ゲームが用意されていて、私も選手として参加した、2班編成の越谷市議会チームの「玉入れ」に。

赤、白の俵の形状の大きめのお手玉を棒の先にある竹かごに投げ入れる伝統的なゲームなのだが、これが中々奥が深い。チームは玉を整え手渡する係と、これを受け取って投げ入れる係に分担。私は整え係。

スタートの合図で一斉に8チームが3分間でかごに入った玉の数を競うものだ。

結果、何と我がチームは優勝の栄冠を勝ち取る事が出来た。(日頃は政策や立場の違いで何かと意見が対立することもある議会だが、この日だけは一致団結箱弁当だったが)

そして、優勝賞品はポテトチップス1袋。以前同じようにこのゲームで優勝した時の賞品は一人コメ3キロだったのだが、賞品の良しあしよりも十分に楽しむことが出来た一日だった。

(10月1日・日曜日)



今日は『みんなの学校』上映会〜今考えたい本当のインクルーシブ教育って?に参加して映画を観てきた。会場は文教大学越谷キャンパス(越谷市南荻島)の教室で、主催はインクルーシブ教育を考える会の市民の皆さん。内容は以下の通り。

「大空小学校がめざすのは、“不登校ゼロ”。ここでは、特別支援教育の対象となる発達障害がある子ども、自分の気持ちをうまくコントロールできない子ども、みんな同じ教室で学びます。ふうふうの公立小学校ですが、開校から6年間、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人もしっかりになって、誰もが通い続けることができる学校を作りあげてきました。すぐに教室を飛び出してしまう子ども、つい友達に暴力を振るってしまう子ども、みんなで見守ります。あるとき、「あの子が行くなら大空には行きたくない」と噂される子が入学しました。「じゃあ、そんな子はどこへ行くの?」

そんな子が安心して来られるのが地域の学校のはず」と木村泰子校長。やがて彼は、この学び舎で居場所を見つけ、春には卒業式を迎えます。いまでは、他の学校へ通えなくなった子が次々と大空小学校に転校してくるようになりました。このとりくみは、支援が必要な児童のためだけのものではありません。経験の浅い先生をベテランの先生たちが見守る。

子供たちのどんな状態も、それぞれの個性だと捉える。そのことが、周りの子供たちはもちろん、地域にとっても「自分とは違う隣人」が抱える問題を一人ひとり思いやる力を培っています。映画は、日々生まれかわるよう育っていく子供たちの奇跡の瞬間、ともに歩む教職員や保護者たちの苦悩、戸惑い、よろこび……。そのすべてを絶妙な近さから、ありのままに映していきます。そもそも学びとは何でしょう?そして、あるべき公教育の姿とは? 大空小学校には、そのヒントが溢れています。」

市民が自主上映する運動が必要だが、上映後の活動が問われている。(10月8日・日曜日)